

## 武士道と日の丸 2 題

JJ1SXA/池

「武士道」とか「大和魂」を持ち出すと、極右思想と言われそうですが…

近代日本の代表的基督者、内村鑑三は、…「武士道と基督教」の中で、「我等は人生の大抵の問題は武士道を以て解決する、正直なる事、高潔なる事、寛大なる事、約束を守る事、借金せざる事、逃げる敵を逐わざる事、人の窮境に陥るを見て喜ばざる事、是等の事に就て基督教を煩わすの必要はない、我等は祖先伝来の武士道に依り是等の問題を解決して誤らないのである」…と書いています。

新渡戸稲造は、著書「武士道」で…武士道は、戦う貴人が職業だけでなく日常生活においても守るべき道で、「騎士道の規律」「ノーブレス・オブリージュ」(身分高い者に伴う義務)である…と書いている、また、文末の方で、…俗謡に「花は桜木、人は武士」と歌われ、武士道精神を表す「大和魂」は、日本の民族精神を象徴する言葉となった。武士道はこのまま廃れるのだろうか。芳しくない兆候が漂いはじめている。武士道は独立した倫理的な掟としては消え去るかも知れない。しかしその光と栄光は、廢墟を越えて生き延びるだろう。…と書いている。

「武士道」の原著は 1898 年、アメリカ滞在中に英文で書かれたもの、1900 年にフィラデルフィア(アメリカの最初の首都)の出版社から刊行され、1905 年には増訂版が出されたそうで、日本でも、フィラデルフィア版と時を同じくして英文版が出版されました。その後、日本語訳されたものがいくつか出版されましたが、一番有名なのは 1938 年に岩波文庫版として刊行された、元東大総長の矢内原忠雄訳の「武士道」とのことです。

原発即廃止を叫べば、国民の大部分が賛同すると思っている政治家が多い、だが、原発を即廃止するための施策が曖昧だ、あんな危険なものは無いに越したことは無い、ぜひ無くす方法、無くした場合の具体的な施策を聞きたい、正に言うは易し。

護憲・戦争反対の運動についても、戦争は無いに越したことは無い、しかし、…「平和憲法にしがみついているならば平和が空から落ちて来ると思っていたら、それは幻想だ」…と説く人もいる、全く同感です。

哲学者・西洋古典学者の田中美知太郎は、…「憲法で平和をいくら唱えてもそれで平和が確立する訳はない。ならば憲法に、台風は日本に来てはならないと記すだけで台風が防げようか」…と言っている、名言です、至極ご尤も。

武士道や騎士道の精神のかけらも無く、対話ができない精神的には低俗とも言える国が近隣に存在する、憲法改正は、本当に改悪なのか？集团的自衛権(国連憲章第 51 条)を考えれば、平和で安全な国であることを願うことは第一としても、憲法改正に、ただ反対すれば良いというわけにはいかなかった気がします、世界に通用し、近隣国に対応できる国作り・法整備は絶対必要だと思うが hw ?

## 日の丸

日の丸の旗の正式名称は、日章旗です、「縦は、横の三分の二、日章の直径は、縦の五分の三」…こんな比率になっています、「日章の中心は、旗の中心、日章の彩色は、地は白色、日章は紅色」。

このことは、「国旗及び国歌に関する法律」で定められています、同法の第一条は、「国旗は日章旗とする」、第二条は、「国歌は君が代とする」と簡潔明快です、過去の訴訟で、学校行事(式典)での起立・斉唱を命ずる旨の職務命令が憲法第 19 条(思想・良心の自由)に違反するものではないというのが、最高裁判例です。

オリンピック等で選手が金メダルを獲得した時、メインポールに日の丸が揚がり、君が代が流れるが、これが気に入らないという人は皆無に近いようです。

学校行事の起立・斉唱は職務命令だからいやなのか、日の丸・君が代が本当に嫌いなのか、そのような行動を取る人達の心情は私には良くわかりません。

「国旗は日章旗とする」、「国歌は君が代とする」というのは法律です、日本は法治国家ですが、この法律が、思想・良心の自由に反するのであれば、別の場所で運動すれば良い事、職業選択の自由もありますが、学校行事の起立・斉唱は予測できること、そんな人達は、教職員とは別の職業を選べば良いだけのこと、起立・斉唱に反対するのは単なる我儘に見えます…現在の日本では、結構我儘が結構まかり通ることが多いようで、裁判になっても、法の不備や瑕疵で結構勝訴したり、おかしな話が一杯、日本がいかにか平和ボケしているかの証左だと思いますが、如何なものでしょうか？

昨年来、中国の領海侵犯や領空侵犯で、大きくマスコミが取り上げていますので、国民もいづらか、平和ボケから目覚めつつあるようですが、まだまだ平和ボケの状態は蔓延したままかと思えます、平和を願わない者はいないと思えますが、平和が続くために、誰かが何とかしてくれるなどと思わず、自分はどうあるべきかと考える事も必要なことと思えます、平和ボケから目を覚ましましょう、自衛隊・海上保安庁の前線の隊員は、常に一触即発の戦闘待機状態、もっと言えば、命の危険をかけて勤務しています、この現実を認識してもらいたいものです、憲法九条を守れば平和は続くのか？九条の会(事務局長は天皇制廃止論者)の人達は、理想論と現実のギャップはどうするのか？九条の会・アピールにある…相手国の立場を尊重した、平和的外交…云々の時代背景は大きく変わっています(相手国の立場を尊重しても、相手に通じない)また、護憲を叫びながら、第1条(天皇…)を否定してどうしたいのだ？そんな矛盾した主義主張の人達が知識人として幅を利かせている、日本は、言論の自由を通り越して、単に勝手気ままなことが言える国なのか？

九条の論議はさておいて、天皇制に反対する人や、日の丸が気に入らない人は、日本から出て行けば良いのではと思う…(祖国日本を純粋に愛する私の本音)

おっと、アマチュア無線の世界では、政治や思想・信条の話はご法度でした。

## 日の丸-2

…尖閣の崖に日の丸を掲げることで、誰かが何かを感じてくれればいい。日の丸にはそういう力があるはずだ…

これは、2012年8月19日尖閣諸島魚釣島に海を泳いで渡り上陸、山頂付近の断崖絶壁に日の丸を掲げた、元海上自衛隊特別警備隊前任小隊長の伊藤祐靖氏の言葉です、氏は、1999年に発生した能登半島沖不審船事件の際には、イージス艦みょうこうの航海長として不審船を追跡し、この時、不審船が停船した場合の臨検を想定し、みょうこうの砲雷科員に小銃と拳銃を持たせて臨時の臨検部隊を編成した経験を上層部に買われ、不審船への臨検を行う「特別警備隊」の発足準備に携わることとなり、特殊警備訓練を経て、特別警備隊で即応部隊を率いる前任小隊長としての任務に就いたそうです。(2007年、他部隊への異動の内示を拒否して2佐で退官)

上陸時の状況の説明では、「最初の約50メートルは潜水で移動し、残りの約350メートルを10分足らずで泳いで上陸、まず、灯台に1つ目の日の丸を付けた後、道なきジャングルを歩き、岩場をよじ登って、約1時間半で、島の最高峰・奈良原岳(362メートル)山頂に到達した、日の丸の両端に重りを付け、数十メートルの切り立った崖の上からロープで日の丸を垂らした」と言っている、正に神業のような仕業。

「特別警備隊」は、2001年に創隊された海上自衛隊の特殊部隊であり、全自衛隊で初めて特殊部隊として創設された部隊(米軍最強部隊と言われる、ビン・ラディンを急襲・殺害した米海軍の特殊部隊SEALSをお手本にしている)

訓練は、相当厳しく、平成20年9月9日、格闘教務中に死亡事故も起きている、不審船の臨検や海賊船への強制乗船・制圧等には、並外れた訓練が必要。

そんな部隊の創隊に関わり、自らも率先して鍛錬を重ね、強靱な肉体と精神力を持つ伊藤氏には、前述の上陸行動は朝飯前の事だったのかも知れませんが、そうやって掲げた者が言う、…日の丸にはそういう力があるはずだ…は、説得力がある。

陸上自衛隊にも精鋭が揃っています、日本の海兵隊と言われる、尖閣対応の「西部方面普通科連隊」や中央即応集団の「第1空挺団」の精鋭達、更に、米国のデルタフォース(対テロ作戦を遂行するアメリカ陸軍の特殊部隊)と同様の「特殊作戦群」の隊員は精鋭中の精鋭、空挺資格、レンジャー資格の持ち主が、厳しい訓練に明け暮れ、その中から更に選抜された超エリート集団、戦闘員のメンバーは、テロリスト達に面が割れないよう、バラクラバ(目出帽)で顔を隠して現れます、先日起きたアルジェのテロ事件はまだ記憶に新しいが、同じようなテロ事件が日本で起きれば、この「特殊作戦群」の隊員が命を投げ打って、突入・救出に向かうのだ(将来法整備が整えば、諸外国の特殊部隊同様、外国へも飛んで行く筈)、日の丸や君が代を嫌いだ、嫌だなどとボケたことをほざいている人達は、一旦事あれば、命懸けで日本国民を守る「特殊作戦群」の隊員達の爪の垢でも煎じて飲んだ方が良いかも(一寸言い過ぎか?)

